



2009 July

里山だより 32号



赤目の里山を育てる会事務局整備に学生会員等が協力

- ・ 総会の報告
- ・ ミツバチの巣箱の状況について そのⅤ
- ・ 2009 年度委託事業・補助事業採択
- ・ 三重県 NPO 活動基盤強化事業への期待
- ・ 国際ワークキャンプ 20 回開催記念特集
- ・ イベント情報 等

特定非営利活動法人

赤目の里山を育てる会

〒518-0762 三重県名張市上三谷268番地の1

TEL 0595-64-0051

fax 0595-63-4314

<http://akame-satoyama.org/>

【20年の里山活動の値打ちが発揮される頃】

6月7日 定期総会の方針で確認 地元名張での信頼・信用をさらに高める努力を！！



総会は、予定通り日曜日の午後に始められました。総会に先立って、里地里山モニタリング 1000 の取り組みを中心となって活動されている奈良県御杖村在住の今西塩一さんに、その取り組みについてお話をいただきました。資料もたくさん用意していただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

総会は、参加者10名＋委任状42で過半数の参加が確認されて、成立しました。活動報告 決算を承認していただき、活動報告もみなさんと議論していただき、承認を得ることができました。また、

新しい理事の立候補があり、学生会員で活躍していた岡田健一さんをみなさんと承認していただきました。

審議の中では、これからの名張市において赤目の里山を育てる会の活動を展望する時に、NPOの中間支援組織が市内では見当たらない中で、私達の取り組みは行政かとても大切に見られることや、名張市特別表彰を受けたり、バイオスタウン構想策定検討会の委員などを委任されたりで、ここ名張の地元での評価が高くなっているといえるでしょう。

そのような中での名張市との協力協働の関係をどのように作っていくのかが、これからの課題と言うことができると思います。ここ20年間の里山活動の値打ちが発揮されていると言っても過言ではありません。これらの長きに渡った取り組みに寄せられる信頼・信用というものが、赤目の里山を育てる会の評価につながっているということができると思います。

他にも、国際ワークキャンプの10年20回のワークキャンプでの実績や、赤目小学校での里山自然体験授業なども11年目を迎えて、いずれも大きな実績を今後どのように市政に生かしていけるのかをしっかりと考えて提言していかなければならないと思っています。

皆様の変わらないご支援をどうぞ、宜しくお願い申し上げます。



●ワークキャンプOB・OGで総会前日から自発的に週末ワークキャンプを組んで、「草刈マサオ」くん(乗用草刈機)で綺麗に里山整備をして頂きました。

新理事の紹介

青年里山フォーラム実行委員長を務めた岡田健一さんです。

この度の定期総会で、ご承認をいただき、理事に就任した岡田健一と申します。

私は、この春社会人になりました。社会人になると同時に理事に立候補しようと思った動機は、大学一年生から赤目の森に関わり、赤目の森に魅力を感じ、盛り上げていきたいという想いがあったからです。赤目の森はとても魅力的な場所であり、数多くの事業を

社会に発信しています。私もこれから社会を担う一人として、失われつつある里山と人を結びつける役目をしっかり果たしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。



【ミツバチの巣箱の状況について そのV】

赤目の森のミツバチ大作戦は一昨年の春に15箱設置しました。お陰さまで、現在2箱の巣箱に生活している状況です。全国的に、ミツバチの大量死などで、注目を浴びたミツバチたちですが、赤目の森の日本ミツバチたちは、当初巣作りがゼロでしたが、今年の春に2つに住み着き、何とか頑張って蜜集めに励んでくれています。

今年も、秋口のイベントで、採蜜の行事をいれたいと思います。貴重な蜂蜜を巣ごとに口に含むと、味わったことのない濃厚な「百華蜜」の真髄を体験することができます。


お楽しみに、ご連絡をおまちください。



<2009年度委託事業・補助事業の各事業の採択を受けました>

★ 市民活動支援事業の委託事業テーマ 50万円 100%委託 事業費50万円
「市民活動・ボランティアのためのスキルアップ講座」

★ 市民活動提案公募型補助事業 20万円50%助成 事業費50万円
「青年里山週末ワークキャンプ」

担当の青年会員の片山さんと中森さんにプレゼンテーションをしてもらいました。※青年里山週末ワークのプレゼンの様子 

★ 日本郵政事業株式会社 お年玉年賀の寄付金事業 340万円+70万円弱の自己負担
「カーボンオフセット」事業 丸紅株式会社さんと一緒に事業を行います。

いずれも、別紙の通り 来年の3月まで取り組む事業です。皆様のご参加を宜しくお願いいたします。



<これから申請書を用意しているもの>

- ★ TOTO水基金 100万円 湧水の調査
- ★ 国土緑化推進機構 90万円 多様な仲間による保全
- ★ 三重県NPO活動基盤整備事業 里山自然体験事業の受け入れ事業 315万円 など。

【三重県NPO活動基盤強化事業への期待】 緊急雇用対策費としてのNPO支援事業

この度、三重県から表題の事業への公募が明らかにされました。6月末までに申請書を提出して、書類審査して、20団体くらいの中で、10団体を7月31日のプレゼンテーション後に採択するとのこと。4. 5年前にも同じような事業に採択されていますが、その時は1年でしたが、今回は3年で1件当たり1315万円の助成を受けられるとの事です。

赤目の里山を育てる会にとって、願ったりの公募事業で、この間里山で培ってきた、「里山自然体験型の受け入れ事業」を提案して行こうと考えています。新しい雇用ができて、これまで力を入れてくても入れられなかった環境教育事業を本格化させることで、エコリゾート赤目の森を再興させることも可能で、理事会一同力を入れて、申請書を書いています。ご支援・ご協力の程宜しくお願いいたします。

【伊賀シンフォニックアカデミーコンサート】予告です

2009年9月20日 日曜日 10時から15時まで 赤目の里山を育てる会 第一号トラスト地里山
自然に触れ合うことを目的に、三重県下で活躍している伊賀シンフォニックアカデミーの吹奏楽コンサートと
中学校のブラスバンド部の合同練習と植林活動を同時に行ってもらおうというコンサートです。

参加費 無料 開始は午前10時より 参加申し込みは不要です。



国際ワークキャンプの取り組み紹介

1999 年より始まった国際ワークキャンプ名張も、今年の夏に通算 20 回目の開催を迎えます。第 20 回を迎えるにあたり、これまでのキャンプの歩みを、歴代キャンプリーダーの残した報告書から振り返ってみます。

(報告：国際ワークキャンプ名張 第 9・10 回キャンプリーダー 佐野憲一朗)

<ワークキャンプ開催のきっかけ>

1998 年 5 月に東京都渋谷区で行われたエコライフフェアにて、里地ネットワークの竹田純一氏を通じてブース出展していた、赤目の里山を育てる会事務局長の伊井野雄二氏と、NICE 事務局長の小林和彦氏が出会い、お互いのブースを行き来し活動を紹介しあった。同年 9 月、伊井野氏がイギリス、ザ・ナショナル・トラスト主催のワーキングホリデーに参加し、環境保全ボランティア活動を行う中で、活動に対する理解を深めた。翌年 3 月、小林氏との協議の結果、赤目の森での開催に至った。

<第 1 回ワークキャンプ>

第 1 回のワークは、店長こと、田村修市さんの指導を受け、間伐材の運びだし、枝落とし、玉切りから始まった。日本の高温多湿な環境にヨーロッパからの参加者は苦勞しつつも、第 1 号トラスト地にツリーハウスを建設し、友情の意味を込めて「フレンドシップハウス・カズ」と名付けた。ボランティアは作業を通じ、「友情こそがこのツリーハウスをつくるなかで築きあげたものなのだ(参加者日記より)」と認識した。キャンプの取り組みは、中日、毎日、朝日、読売、産経新聞で報道され、地域に活動を広く知らしめた。「これらによって、目的はさまざまであるが赤目の里山へ足を踏み入れる人々が増えることにつながっていくだろう。それは里山つまり『人と一緒に生きる山』の活性の第一歩なのである(リーダー)」「国際ワークキャンプで世界の若者が赤目の里山に建設したツリーハウスを実際に見て、自分たちの活動ももっと何かできるのではと考えるきっかけになり、とても触発された(地元ガールスカウトの中高生)」という感想が残されている。



<トラスト地の整備>

第 3 回のワークキャンプは、暑さを避けるため、開催時期を昨年より 1 か月遅らせて開催し、ツリーハウスへと繋がる階段の製作を行った。これにより、遊歩道からツリーハウスまで、容易に散策できるようになった。また、ガールスカウトと一緒に竹の伐採作業やキャンプにも取り組んだ。車が夜中に溝にはまって出られなくなり、参加者全員で持ち上げたハプニングもあった。



<文化交流>

ワークキャンプでは、ボランティアワーク以外にも、吉森さんの日本家屋、田中さんのたたみ工房、伊賀上野の忍者屋敷の見学など、日本文化に触れるプログラムも行われた。地元の赤目小学校の訪問は恒例行事となり、4 年生の児童と一緒に、1 時間の授業と給食の時間を過ごしている。子ども達には外国人と触れ合う機会となり、ボランティアには日本の子どもと触れ合う機会となっている。第 1~3、5、9 回では 1 泊 2 日のホームステイも行い、地元住民と文化交流を行った。



<ツリーハウス第 2 弾>

第 5 回のキャンプでは、トムソーヤにツリーハウスを建設した。10 日のワーク中、8 日を建設作業に当て、十分な強度を持ったツリーハウスを完成させた。その後階段が破損したが、第 13 回キャンプで補修が行われ、現在でも子どもに人気の遊び場となっている。屋根には建設に関わった参加者のサインが残されている。



<トンボ池のトレール整備>

第 7 回キャンプでは、トンボ池周辺のトレールを建設した。



車椅子も通れるよう、広い幅で製作したため、イベント等で多くの見学者が訪れてもすれ違える。ゆったりと観察ができ、憩いの場となっている。



<デイサービスの開所>

第 8 回のキャンプが行われている中、デイサービス赤目の森がオープンした。それに先立ちワークキャンプでは、利用者に乗せた送迎車が玄関まで入れるよう、コンクリートを流して道の舗装を行った。里山探検隊やレディース講座のイベント補助、届いたばかりのペレットストーブの組み立て等も行う。森林作業から始まったワークキャンプの活動範囲は、デイサービスやイベント運営等にも広がっていった。



回数	開催日程	キャンプリーダー	ボランティアワーク内容	参加者数			
				全期間		部分	
				日	外	日	外
1	1999年7月27日～8月10日	林亜紀	①雑木林の間伐②ツリーハウス建設③案内版づくり④錦生保育所のシーソー作り	5	9	1	
2	2000年2月16日～2月29日	内貴さやか	①散策道の整備②椎茸菌の埋め込み	6	4		
3	2000年8月23日～9月5日	山門和宏	①雑木林の間伐②間伐材を使って階段や道作り③赤目の里山の案内板作り	5	6	5	3
4	2001年1月31日～2月14日	小林和彦	①倒風木の伐採 ②炭焼き釜作り ③トーマポール作り	1	8	5	
5	2001年9月5日～9月19日	小川幹雄	①歩道整備等の里山整備活動②ツリーハウス作製③椎茸の原木運び	6	3	1	
6	2002年1月30日～2月13日	高柳仁美	①赤目の里山で散策道の整備②椎茸菌の埋め込み	4	4		
7	2002年8月28日～9月11日	上田英司 熊木菜奈子	①とんぼ池のトレール作り②里道の整備③里山案内表示の作成	6	4	1	
8	2003年1月15日～1月29日	荒川知佳	①デイケアサービス開始に向けての道の舗装②草刈り③イベントの準備と運営	3	4	3	
9	2003年9月10日～9月24日	佐野憲一朗	①トムソーヤ広場の整備②里道の整備③里山広場のポール立て	5	6	4	
10	2004年2月20日～3月5日	佐野憲一朗	①トムソーヤ広場の整備②里道の整備③エコリゾート前の道作り	4	4	2	
11	2004年8月20日～9月3日	羽鳥祐子	①トムソーヤ広場の整備②里道の整備	6	6	2	1
12	2005年3月10日～3月24日	野島省吾	①トムソーヤ広場の整備②里道の整備	6	6		
13	2005年9月1日～9月15日	本田智子	①トラスト地舞台の整備②トムソーヤ広場・トンボ池・里道の整備(草刈・伐採材の搬出)⑤薪割り⑥里山広場～トンボ池までのトレール修理⑦里山フェスタ開催	8	6	8	
14	2006年3月20日～4月3日	岡田健一	①里道の整備②蜂箱作り③ハニーロードの整備	5	6	1	
15	2006年9月2日～9月22日	青木孝典	全国雑木林会議の会場整備・運営補助	4	6		
16	2007年3月16日～3月30日	岡田健一	①エコリゾート周辺整備②里山保全③子供キャンプ準備・運営④石釜の屋根作り	6	4		
17	2007年9月1日～9月15日	安川香	①里道の整備②薪割り③二胡ミニコンサート開催	7	5		
18	2008年9月1日～9月15日	南野崇	①里山の整備②エコリゾート裏のせり出し舞台と屋根の建設	4	4		
19	2009年3月17日～3月31日	松浦香奈	①青年里山フォーラムの開催②第2号トラスト地トレール補修	4	4		
20	2009年9月8日～9月22日	松本類志	①吹奏楽団コンサートイベント開催②里山保全活動(予定)	-	-	-	-
合計参加者数 231名				95	99	33	4

<草刈りとの戦い>

第1回よりほぼ全てキャンプを通じて行っているのが、草刈りワークである。夏の暑い時期、冬の寒い時期ともに、草刈りのワークは体力的に厳しいもので、参加者は里山保全の大変さを認識する。この10年間、里道や広場が残されてきたのは、草刈りを毎年継続してきた結果である。ワーク最終日に、草を刈った里山広場に「赤目の里山を育てる会」と書かれたポールを立てるワークを用意していたのは、初日から最後まで草刈りワークを続けた、第9回ワーク参加者に、目に見えるものを残させたいという、店長の思いからであった。



<第2古墳コース開通と里山フェスタ>

第10回のキャンプでは、ワーク指導者の山本さんを先頭に、チェーンソー、刈払機、枝切りばさみを持ったキャンパーが隊列をなし、放置されていた第2古墳コース(通称2号線)を整備しながら進み、開通させた。熊本さんの指導のもと、トムソーヤの拡張も進め、丘の頂上までの草刈りを行った。週末ワークキャンプも同時開催し、国際・週末両キャンパーが協力し、里山フェスタという、各国料理や里山遊びを体験するイベントを開催し、里山は市民で賑わった。最後にキャンプ10回目を記念し、トムソーヤに栗の木を植樹した。



<指導者不在とキャンプ間連携>

第11回を開催する頃より、キャンプに付いて作業指導を行う人の手配が難しくなっていた。その中で、過去のワークキャンプに参加したメンバーが、次回キャンプの作業補助を行うという方法が取られるようになった。

第11回以降のキャンプでは、キャンプOB/OGが加わり、新しい参加者に対し、道具の使い方や作業の進め方を説明したり、育てる会事務局と共に、作業内容の決定に携わるようになった。また、里山フェスタで取り組む内容も、クラフト、展示、コンサート、ゲーム、料理などを取り入れ、規模も拡大し、以前から課題となっていた、地元住民への波及効果を高めるべく取り組んでいった。

<里山フェスタの助成事業化>

第13回キャンプは、開始早々、キッチンの屋根が崩落したため、集合初日から皆で修理を行った。このキャンプで行った里山フェスタは、



国土緑化推進機構の助成金事業として行うことになり、キャンプ全期間を通じ、その準備に取り組んだ。フィールド整備に加え、企画作り、ビラ配り等も行い、200人の参加者が訪れる一大イベントとなった。地元テレビ局の取材もあり、ニュースで取り上げられた。

(<http://move.nava21.co.jp/shun/1satoyama.wmv>)

<日本ミツバチの養蜂とハニーロードの整備>

第14回では、育てる会の新規事業である、日本ミツバチの養蜂で用いる巣箱の製作に取り組んだ。杉板の加工から行い、合計30箱近くの巣箱を製作した。また、会議室からフレンドシップハウスまでの斜面に新たな遊歩道を整備し、その沿道に巣箱を設置した。多くのミツバチの巣作りを願い、遊歩道はハニーロードと名付けた。ハニーロードの開通により、フレンドシップハウスを経由し、第1号トラスト地を周回する道が開通し、最近のイベントでは必ず散策するルートとなっている。

<全国雑木林会議の開催>

第 15 回キャンプは、第 14 回全国雑木林会議・三重大会の開催を行うため、通常よりも 1 週間長い、3 週間のキャンプを開催した。



ワークキャンプ OB/OG で組織した実行委員会青年部や、日韓里山交流事業団、京都学園大学中川ゼミなど、多くの若者も加わり、キャンプと共に雑木林会議の準備と運営に関わった。イベント当日のキャンパーは忍者に扮してスタッフを務めた。320 名の参加者が集い、ワークキャンプ名張史上、最も大規模かつ賑やかなキャンプとなった。

<青少年里山探検キャンプ開催>

第 16 回キャンプでは、国土緑化推進機構の助成事業である、青少年里山探検キャンプの開催を行った。最初の 1 週間は子ども達が安全に活動ができるように里山の整備を行い、



キャンプ後半に、地元名張市の小学生 20 名を受け入れ、2 泊 3 日の里山体験型キャンプを行った。参加者は 24 時間子どもと寝食を共にし、安全確保とプログラム進行に取り組んだ。その様子はケーブルテレビでも放映された (<http://move.nava21.co.jp/shun/satoyamakyantu.wmv>)。また、ワークキャンプ参加者の独自プロジェクトとして、雑木林会議の際に整備したこもれびテラスの石釜に、雨の日でも調理ができるよう屋根を設置した。この石釜は、現在、毎月定例のパン焼きイベントで使われている。

<ボランティアの負傷と安全対策>

第 17 回のキャンプでは、積水ハウス助成事業「赤目の里山の希少生物たちと遊ぼう・二胡ミニコンサート」を開催した。前半はイベントに向けた里山保全ワークに取り組み、イベントも成功を収めた。ところが、キャンプ 12 日目の薪割り作業中、ボランティアが指を切断する事故が発生した。これを機に、ボランティアの安全に関するルールや対策が問題となり、ワークキャンプ OB・OG を含め、数回に渡り再発防止会議を行った。その結果、赤目の里山を育てる会は、「森林里山ボランティア作業安全指針」を作成し、活動の安全基準を定めた。これ以降、ボランティアが森林作業を行う際は、安全日報の作成と安全確認会議の開催を義務付けた。

<ワークキャンプの再開>

2008 年春のキャンプは NICE より開催できないと通知を受け延期となったが、夏には人数を 8 人に縮小し、第 18 回のキャンプを再開した。例年行っている里山保全作業に加え、エコリゾート裏手に、屋根とせり出し舞台を増築した。この作業により、屋根の付いたスペースが広がり、雨天時もイベントや作業が可能となった。

<青年里山フォーラム開催>

第 19 回のキャンプでは、第 16 回ワークキャンプ以降の OB・OG が実行委員会を組織し、全国の森林・里山保全に取り組む青年を対象とした市民会議、「青年里山フォーラム 2009 in 赤目の森」を、



三重県緑化推進協会の助成金を受けて開催した。助成金申請、広報、企画、運営、報告書作成の全てに渡り、学生の実行委員が行った。当日運営には、第 19 回キャンプのメンバーが加わり、協力して事業を開催した。39 名



の参加者と、実行委員 11 名、国際ワークキャンプ 7 名の、総勢 57 名が一同に会し、里山を次世代に残すために青年ができることを議論した。その後、ワークキャンプ参加者は第 2 号トラスト地のトレールを完成させ、ハッチョウトンボの観察環境の整備を行った。

<コンサート開催>

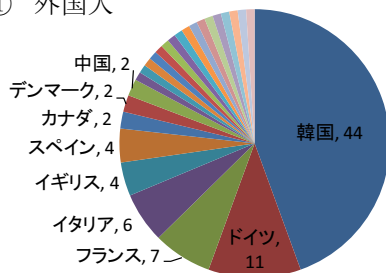
第 20 回のキャンプは、週末ワークキャンプの開催、および伊賀シンフォニックアカデミー吹奏楽団のコンサートを行う予定で、9 月の開催に向け準備を進めている。

<ワークキャンプの役割>

以上振り返ったように、ワークキャンプは赤目の里山を育てる会の事業と密接に関わっており、その重要性は年々高まっている。またキャンプ卒業生が、その後リーダー、企画立案や運営に関わるなど、継続して活動するケースも増えており、青年リーダー育成の場としても機能している。こうした取り組みの継続は、里山を育てるだけでなく、市民活動の担い手を育てる重要な役割を果たしていると考えられる。

●参加者の出身地(全期間参加者・判明分のみ)●

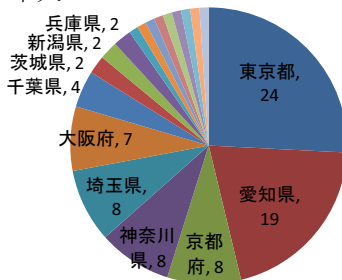
① 外国人



1名の国・地域
アメリカ、ウガンダ、エストニア、オーストラリア、オーストリア、コロンビア、シエラレオネ、スコットランド、セルビア、チェコ、トルコ、フィンランド、ベルギー、ミャンマー、台湾、オランダ、ギリシャ

計 26 カ国・地域

② 日本人



1名の都道府県
岐阜県、宮城県、広島県、三重県、静岡県、栃木県、奈良県、福岡県、北海道

計 19 都道府県



7・8月 イベント情報

7月

5日(日) ●名張市公益事業「市民活動支援スキルアップ講座」交流情報センターオープン記念第1弾
第1回「NPO ボランティアの昨日 今日 明日」

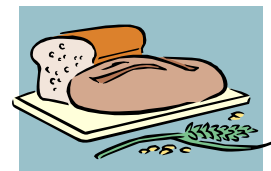
NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

常務理事・事務局長 松原明氏

午後1時30分 名張市市民情報交流センター参加費無料

7日(火) ●里地里山モニタリング調査日

22日(水) ●石窯を使った「天然酵母パン焼き講習会」



8月

8日(土) ●日本NPOセンター代表理事

法政大学現代福祉学部教授 山岡義典先生「囲む会」開催

夕食をともに 参加費3000円飲酒運転厳禁のため「宿舎」提供します。

料金は1泊2食6000円 連絡は事務局

●名張市公益事業 週末ワークキャンプ「里山で木質バイオマス体験」

* 集合日時：8月8日 10:30

* 集合場所：近鉄大阪線 赤目口駅

* 内容：8日午前 里山入門講座，フィールド散策

午後 里山保全ワーク，懇親会

9日午前 里山保全ワーク

午後 日本NPOセンター代表理事

山岡義典氏の講演会 特別聴講

午後4時頃解散予定

* 持物：軍手、雨具、ワーク用の服（長袖、長ズボン）、1日目の昼食

* 参加費：一般1,700円（各種会員割引有）名張市在住、在職の方は無料
ただし、1升のお米持参

* 申込：電子メールで、workcamp@akame-satoyama.org

9日(日) ●名張市公益事業「市民活動支援スキルアップ講座」交流情報センターオープン記念第2弾
第2回「地方のボランティアNPO活動の本当の値打ち」

日本NPOセンター代表理事 山岡義典氏

午後1時30分 名張市市民情報交流センター参加費無料

11日(火) ●里地里山モニタリング調査日



●お問い合わせ・お申し込みは事務局まで

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

電話：0595-64-0051 メールアドレス：office@akame-satoyama.org

ご入会ありがとうございました

(敬称略)

- ・ 知多市 5月
- ・ 名張市 5月
- ・ 名張市 5月

<年間会費>

学生会員 1500円 一般会員 3000円

郵便振り込み

00810-8-48008

赤目の里山を育てる会

募金大歓迎!

情報満載! ホームページ



イベント情報が年間カレンダーで

いち早くキャッチできます。詳細についても掲載されているので是非、検索してみてください。

[赤目の里山を育てる会](#) ←検索

デイサービス赤目の森の様子

開所以来休みだった「火曜日のサービスを提供し始めました」。開始は今年の5月11日の月曜日からです。

月曜日から土曜日までサービ

スを提供できるようになりました。早速ご利用の方もきて、順調に推移しています。

赤目の森から

週末ワークキャンプでの成果は、仲間と共にワークすることで様々なことが整備されてきました。事務局室の整備、作業道具の整備もされ綺麗になりました。

今回、名張市からの受託事業、「青年里山週末ワークキャンプ」は地元の片山さん、中森さんがプレゼンテーションを行いました。これから中心となって国際ワークキャンプの青年OB・OGのサポートを得て開催されます。赤目の森でもキャンプが始まる前にみんなで交流会をしました。赤目の森は、年齢構わず、活躍できる場所です!是非、ご参加下さい。

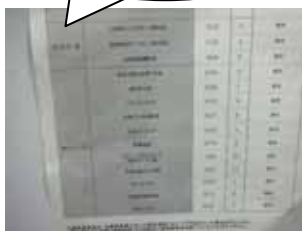


新しい事務局・作業道具整理整頓



名張市役所大会議室にて片山さん、中森さんプレゼンテーション

当日、結果が貼り出されました



地元青年とワークキャンプOB・OGとの交流会

これは一体何でしょう?



お鍋のふたのようなこの物体はなんだと思いますか?実は掃除機なんです。今、赤目では、円盤型の掃除機が人気です。「掃除郎」と名前をつけて、多くのご利用の人たちに見守られて、食堂の床を走り回っています。ケアマネージャーさんが訪問された時に、豊かな自然の赤目の森で最新型の機器を見るとは思っていなかった〜と驚きでした。赤目の森は面白い!!

編集後記

蛍の季節がやってきました。源氏蛍や平家蛍が川沿いの林の中や田んぼの中で光るさまは、夜空の星とホテルの乱舞が一体となって、ファンタジーの世界です。幻想的で感動することができる豊かな自然に囲まれて幸せだなと思うひと時です。赤目ファンの中にもホテルの時期に訪れたことはない方も多いのでは?一度、訪れてみるのも新しい発見ですよ。 K. Y